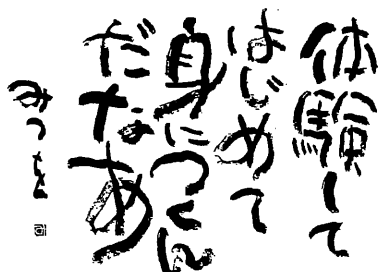


さくら第498号

令和 3年 6月

さくら

発行所 さくらそろばん
発行者 平瀬重雄
春江町境 17-7:TEL51-1337
hirase@mx2.fctv.ne.jp

『三日みっか・三月みつき・三年さんねん』

新しい環境の中に入ると、周りは知らない人ばかりであり、これらの集まりの中にいると不安な気持ちになりこの先はたしてやって行けるのだろうかかと心配になることがあります。

周りの人たちは誰もが自分より能力が上に見えたり、仲良くなり友だちができるのだろうかかと心配で気持ちが落ち着きません。このような経験をしたことはありませんか。

私は、春江小学の1年生が終わったその翌日から丸岡町の竹田小学校へ転向し、6年生の卒業式が終る日まで今はもうすでに廃校(2014年3月)になった学校へ通いました。

私が住んでいた吉谷区というのは昔はずい分多くの家がありましたが、転校した時には4戸だけで小学校へ通う子どもはもう1戸だけであり、同学年女子1名の私との2名だけです。

小学校までの登下校は急な山道が1キロ余り続き、田舎の学校であるその人たちから、山奥に住んでいると言われたところであり、話題の「ポツンと一軒家」ならず4軒屋でした。

初めて登校し授業を受け、休み時間の事でした。まったく知らない人ばかりですから何をしたいのか分からず、竹田地区独特の方言もあり一人でポツンといたところ、ある子が近づき「ばいや」しようと言います。

「エッ?何するの」と意味が分からずぼんやりしていると、早く来いというように私の手を引っ張り走り出します。「オニごっこ」でした。ようやく遊びの仕方が分かりいっしょになって走り回った記憶が今も脳裏に残っています。

知らない地で何も分からない私に遊びを教えてくださいましたのはおそらく同級生だったと思います。もちろん、ひとクラスだけの学年ですからに話す場も遊びも増え楽しくなってきました。たったひと言が不安を取り去り、遊びに行く場所も学校からに遠くなりました。

三月(みつき)もすると学校生活にも慣れ、楽しくなり心配事もきえます。登下校には時間がかかりますが、子ども心には大人が思うほどの不安や辛さはないものです。

しかし、冬になると同級生の女子は学校近くの別宅に泊まるので雪道を歩くのは私ひとりです。当時は雪も多く降り月曜日の朝は歩道は開いてなく、けっこう時間がかかりました。

帰り道では、雪の重みでしなっていた竹の葉の雪も日差しでとけだし、足もとで「バサッ」という大きな音とともに積もっていた雪が舞い上がりビックリしたものです。

野ウサギが音もなく走り去り、キジなどが「バタバタ」と羽音と共に飛び去ったものでした。

季節は移り変わり3年もすると行動範囲がさらに広がり、ある秋の放課後、友だちが丸岡町猪爪という地の田んぼで刈り入れがあるからと誘われ、楽しそうだ、おもしろそうだと家族に何もいわず出かけ、帰りが遅くなり心配した親にきつく叱られた思い出があります。

何かのけいこ事、習い事、運動など新しく始めようとする時に昔から言われているのが、三日、三月、三年目がその節目となり、辛くて嫌になりやめてしまう、逆にいえば、初めの三日が我慢できた、なんとか三月はやめずに頑張ることができた、それを続けていたので三年が過ぎようやく自分の目的を果たすことができたといえます。

その節目の時にあきらめるか踏ん張るかで結果が大きく違います。イヤな人間、キライな勉強でも逃げずに、相手のいいところを見つけよう、苦手な勉強でも自分で必死になって取り組んでいるとやがてよい方法が見つかります。明るく元気よくあきらめずに進んでいきましょう。よい結果が必ず待っています。